

2014年4月2日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、今週、ノーウオーク（米国）で会合を開催し、お互いの活動の最新状況を確認するとともに、両設定主体が現在関心を有しているテクニカルな項目について議論を行いました。この会合は、高品質なグローバルな会計基準の開発へ向けて連携を深めるために、ASBJとFASBが年に2回、定期的に行っているもので、今回で第16回目となりました。

今回の会合において、ASBJとFASBは、FASBが現在審議を行っている「金融商品」、「のれん」及び「開示フレームワーク」について議論を行ったほか、国際会計基準審議会（IASB）が現在審議を行っている「概念フレームワーク」、「リース」及び「料金規制対象活動」についても議論を行いました。また、ASBJが現在実施しているIFRSのエンドースメント手続についても議論を行いました。

ASBJとFASBは、引き続き、直面する課題や今後想定される懸案事項について意見交換していくことに同意しました。なお、次回の会合は2014年下期に東京で開催する予定です。

3月31日に任期満了に伴い退任した西川郁生ASBJ前委員長は次のように述べています。

「私は、この定期会合の初回から参加をしているが、今回が最後の参加となる。FASBとASBJは、これまで建設的な意見交換を行うことができおり、高品質なグローバルな会計基準の発展に貢献してきたと考える。今後、ゴールデンFASB議長と小野ASBJ委員長の下で、ASBJとFASBの緊密な関係がこれまで以上に発展することを祈念している。」

小野行雄ASBJ委員長は次のように述べています。

「ASBJとFASBの緊密な関係を構築し、発展させてきた西川前ASBJ委員長とゴールデンFASB議長に心から敬意を表したい。高品質なグローバルの会計基準の開発は、世界の資本市場の発展に寄与するものであり、ASBJとFASBとの間の定期会合は意義深いものであり、今回の定期会合で

も建設的な議論ができたと考えている。今後、これまで以上に緊密なコミュニケーションを図ることにより、関係を深めていきたいと考えている。」

ラッセル・ゴールドデンFASB議長は次のように述べています。

「議論したプロジェクトの多くについての最近の審議を踏まえると、我々とASBJとの今回の会合は、非常にタイムリーで有益であった。FASBは、西川郁生ASBJ前委員長の長年にわたる貢献に対し、深い感謝の意を表明したい。また、FASBは、小野ASBJ委員長と共に、会計基準及び財務報告を国際的に改善することを目指して引き続き全面的に協力していくことを楽しみにしている。」

企業会計基準委員会 (ASBJ) について

ASBJ は、2001 年 7 月に民間部門の機関として設立された。ASBJ が開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJ は、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJ は、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJ に関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会 (FASB) について

FASB は、1973 年以来財務会計及び財務報告基準を設定するための民間部門の機関として指定されている。それらの基準は、財務報告書の作成を規定し、証券取引委員会及び米国公認会計士協会により権威のあるものとして正式に認識されている。投資家、債権者、監査人及びその他の人々は、信頼性、透明性、比較可能性のある財務情報を必要とするため、このような基準は、経済の効率的機能にとって不可欠である。FASB に関する詳細な情報は、ホームページ www.fasb.org をご参照いただきたい。